

きらめけ! 原石

陸上仕込み 瞬発力武器

将来の五輪・パラリンピック代表を発掘する国の「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」で才能を見いだされ、今年度の日本フェンシング協会の育成指定選手に選ばれた。栗東市立葉山中では陸上部員。鍛えた脚力が生むスピードを武器に、飛躍を期す。

陸上は小学4年から始め、県大会で優勝経験を持つ。「他のスポーツもやってみたい」と小学5年で県の次世代選手育成事業「滋賀レイキッズ」の4期生となり、フェンシングを体験。「攻撃が決まった時の達成感」に魅了され、中学入学と同時に本格的に剣の練習にも打ち込んだ。

滋賀ジュニアフェンシングクラブ 深尾 俐瑠紀選手 14



練習に励む深尾選手（大津市で）

県フェンシング協会ジュニアコーチの田部井崇博さん(29)は「脚力や瞬発力に秀でるが、それだけではない。練習に取り組む姿勢と負けず嫌いな性格も魅力」と評する。コロナ禍の中で、試合や高校生の胸を借りる機会は失われたが「自分との闘い」と自

らに言い聞かせ、剣を操る前腕筋などのトレーニングを毎日続ける。課題の「剣さばきと駆け引き」の上達に向け、鏡の前でのシャドーフェンシングも欠かさない。日本人初の五輪メダリストで大津市出身の太田雄貴・日本フェンシング協会会長に憧れている。「スピードとキレのある動きで、いずれは僕も世界のメダルを」と目を輝かせた。(生田ちひろ)